

僕とゲームとエグゼイド

味噌神のスペリア

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

仮面ライダーエグゼイドの適合者

吉井明久はゲームドライバーとマイティアクションの力で

クラスメイトを守ることが出来るのか？

そして、立ち上がる四人の戦士の物語

注意事項

原作よりも頭がいい明久になっております

ヒロインは未定です

弱アンチが入っていますがすぐに救済します
ただあるキャラだけ強アンチになります

エグゼイド要素が強い為

バカテスの召喚獣要素は少ないです

原作キャラ死亡は皆さんの感想で決まります

この小説は評価1から3が付くと消すことになりますので

つまらなかつた方は評価を押さず

ブラウザバックを推奨します。

おもしろかつた方はお気に入りや感想などを

よろしくお願いします！

目次

始まりの日	1
Fクラスの現状	7
初変身！マイティアクションX	12
ノーコンテニユー	18
動き出す影	25

始まりの日

僕の名前は吉井明久

僕は昔に重い病気で入院していた

重い病気を治す為に手術をしないといけない

ただ成功が難しい手術だと僕は聞いた

だけど、早く治りたいもあって僕は手術をし成功した。

目を覚ますと目の前には僕を治してくれた

先生が見え先生は言った。

「よく頑張ったね……褒美にこのゲームをあげよう」

先生は僕にご褒美にゲーム機をプレゼントして貰った

「明久君……これからキミは大変なこともあるだろう……だけど

それを乗り越え立派な大人になって欲しい」

先生の言葉に僕は先生に憧れを感じた

将来 僕は先生みたいな立派なお医者さんになりたいと

僕は退院後はお姉ちゃんと両親に将来のことを話すと

皆は僕が将来　医者になることに賛成してくれた。

僕は先生が貰ったゲームをしながら医者になる為の勉強もした。

そして…高校生になり僕は文月学園に入学することに決めた。

僕はこの学校で最高の友たちと共に戦うことになるとは

まだ知らない

文月学園

春　入学式の日

一人の少年が走っていた。

「はあはあ…ヤバイ…寝坊しちゃったよ…」

僕は吉井明久…現在、寝坊してしまい遅刻ギリギリの状態である。遅くまで勉強して

いたせいで寝るのが遅れた理由だが

遅刻したら言い訳にしかないから急いでいる。

「遅いぞ！吉井！」

門の前につくと一人の先生が明久に声をかけた。

「おはようございます！鉄人！」

「鉄人じゃない！西村先生と呼べ！吉井」

「冗談ですよ 西村先生」

「たつく…そうと吉井…すまなかつた…」

西村先生は明久に謝る

西村先生が謝る理由は別の話に

「大丈夫ですよ…西村先生が悪くありませんし

3年の頃にはAクラスになって見せますよ」

「そうか…吉井のクラスはFクラスだ

それと学園長が呼んでいたからそのまま学園長室に向かつてくれ」

「分かりました！西村先生」

明久は門を通り過ぎそのまま学園長室に向かった。

すると学園長室から声が聞こえ

明久はドアをノックして学園長室に入ると

そこには、学園長とスーツを着た若い男性が居た

「学園長 お呼びですか？」

「来たかい…話があるのはここに居る奴から聞きな」

するとスーツの男性が明久の前に立ち

笑顔を浮かべた。

「初めまして、私はゲームコーポレーションの社長をしています 壇 黒谷です」

「は、初めまして…吉井明久です！ゲームコーポレーションって言えばマイティアクシオンゲームを作りあらゆるのジャンルゲームを作った有名な会社じゃないですか？何故、この学校に？」

「そうだね…私は学園長さんとは学園の召喚獣システムを作った仲でね…今日は吉井明久君に頼みがあつて来たんだ」

「僕にですか？」

「そうだよ…ゲームマスターのキミにね」

ゲームマスター…それはあらゆるジャンルゲームの大会で

優勝した者にしか与えられない称号である。

「確かに僕はゲームマスターですが…僕に頼みとは？」

「そうだね…今世界はある新型ウイルス 通称ゲーム病と呼ばれる病気が進行しててね…」

ゲーム病…患者のストレスを餌にしウイルスが成長すると

バグスターと呼ばれるゲームバグスターが生まれ

人を殺してしまう病気

「そのゲーム病と壇さんが繋がることって？」

「そうだね…私はバグスターに対抗する為にあるドライバーを生み出した…それがゲームドライバーと呼ばれる物だ

そのゲームドライバーをキミにゲームマスターであるキミに装着員として使って欲しいんだ」

壇 黒谷の言葉に明久はビククリした

ゲーム病が広まれば確実にウイルスはバグスターを

生み出し患者を殺してしまう

明久のある決断を下す。

「分かりました…ゲームドライバーの装着員になります！」

「ありがとう！吉井明久君！では、これを」

壇 黒谷は明久にスーツケースを渡した

「この中にゲームドライバーが入っている…バグスターは

人間の体内に潜伏しているからスーツケースの中にバグスターを探す機械とドライバーが入っている…」

明久は中を開けると少し色が鮮やかなドライバーと

ピンク色のガシヤットと聴診器に白衣が入っていた。
明久はゲーマドライバーの装着員になることになった

Fクラスの現状

明久は壇 黒谷から貰ったドライバーと聴診器を自分の鞆に入れピンク色のガシヤットを見る。

「これって…マイティだよな？」

ガシヤットに書かれた絵は

マイティアクションゲームに出てくる主人公

マイティだった。

明久が最初にしたゲームで一番の得意ゲームだった

「僕のゲームはアクションゲーム？…よく分からないしな…」

明久はマイティアクションガシヤットを胸ポケットに入れると最後に白衣を掴みそれを着ることにした。

「うわー！医者みたいだ！先生みたいな立派な医者になりたいし…僕が新型ウィルスを倒して見せる！…って！ヤバイ早く教室に行かないと」

明久はこれから自分が通う教室に向かった

明久のクラス Fクラスは

成績が一番悪いクラスでかなりの問題児が集められたクラスであった。

「…なにこれ…さつき見たEクラスよりも酷いじゃないか…」

仕方ない入るか」

明久は扉を開けるとそこには教師が立っていた

「遅れてすみません！」

「ん…吉井君ですね？遅れた理由は西村先生から聞きました…取り合えず自己紹介だけ

お願いします」

「わ、分かりました！」

明久は先生の横に立つとクラスメイトの顔を見ると

友達の姿があり明久はほっとしていたが

机がちやぶ台で椅子が座布団にカビた畳…酷い

「僕は吉井明久です！将来は医者になることを目指しています！気軽に明久でも呼んで

下さい！」

すると、Fクラスのメンバーがざわつく

『お、おい！吉井ってAクラス並みじゃなかったか？』

『何故、このクラスにいるんだ？』

「よろしくお願いします…吉井君の席は坂本君の横に」

「はいー」

明久は坂本と呼ばれる男子の横の席に座ると

坂本と明久は笑みを浮かべた。

「よお…明久！Fクラスに来たみたいだな？」

「まあ、あれがあつたから仕方ないけどね…雄二だつて

何でFクラスに？」

「ん？まあ、お前らとまた1年楽しみたかつたもあるが

色々あるんだよ」

坂本 雄二…僕の友達でかなり頭もいいし

噂では霧島さんと呼ばれる美人と付き合つてる噂もある

「これからよろしくね？」

「おう」

明久は先生の話を聞いていると

ドアが開きそこにピンク色の髪をした女子生徒が入つて来た

「遅れてすいませんでした！」

そう…彼女が入つた瞬間

Fクラスの皆は驚いていた。

何故なら彼女は…

「自己紹介をお願いします」

「は、はい！姫路瑞希です！よろしくお願いします！」

「はい！質問です！」

一人のFクラスの生徒が手を上げた

「あつはっはい！なんですか？」

「え〜と…なんでここにいらっしゃるんですか？」

彼女もまたAクラスの学力を持つから

Fクラスに来たことで皆 ビックリしている。

「そ…その…試験の最中 高熱を出してしまいました…」

まあ、知らない人は知らないだろう

僕は振り替え試験の教室が一緒だったから知っている。

僕がFクラスに来た理由の一つだしね

「ああなるほど！俺も熱（の問題）が出たせいでFクラスに」

「ああ科学だろ？アレは難しかった」

「俺は弟が事故に遭ったと聞いてそれどころじゃなくて…」

「黙れ一人っ子」

「前の晩 彼女が寝かしてくれなくてさあ〜」

「『今年一番の大嘘をありがとう!』」

流石 Fクラスだって言葉しか出ないよ

すると姫路さんは雄二の隣の席へと座った。

「では、自己紹介は終わりま…」

ガラガシヤンと机が壊れた

「えー替えを用意してきます」

福原先生は替えを取りに行くため

教室をあとにした。

これからこのFクラスのメンバーたちと共に

戦いの渦に吞まれ 戦い哀しみ

そして、僕たちの運命は神しか知らない

初変身！マイテイアクションX

先生が戻って来るまでは自習かな？

他のメンバーたちは本を読んだり駄弁っている

すると、姫路が明久に近付き話しかける

「あ、あの…吉井君」

「ん？姫路さん？どうかした？」

「その…あの時　ありがとうございました！」

「大丈夫だよ？それより姫路さんは大丈夫だった？」

「はい！吉井君のお陰です」

そう…あれはクラスの振り分け試験の日

僕はテストを受けていると突然　姫路さんが倒れた

「姫路さん！」

「吉井　座りなさい…今はテストの途中だ」

「そ、そんな！姫路さんが倒れたんですよ!!」

「姫路　途中退室は点数は無しになるがいいか？」

「は、はい…退室します…」

姫路は息切れをしながらそう言った

「なら、皆の邪魔にならないように退室しなさい」

「なっ!先生!姫路さんが可哀想です!一人で行けそうではありません!」

「吉井 座りなさい…お前も点数無しにするぞ」

「構いませ…テストよりも人が大事です!教師なら分かるでしょ!僕も退室します!

…大丈夫?姫路さん?」

「吉井君…ごめんなさい…」

明久は姫路をおんぶし教室を退室した

そして、二人はFクラスになった。

「姫路さんが無事でよかったよ」

「はい!ありがとうございます」

「…明久…」

「明久は優しいやつじゃのう」

「あれ?ムツツリーニと秀吉!二人もFクラスだったの?」

木下秀吉と土屋康太

1年の頃の友達で秀吉とは小学生の時の友達だ

秀吉には双子のお姉さんがいるがここにはいないし

賢いからAクラスにいるかも知れない

「うむ！ワシもあの教室で受けてたからのう…だから、ワシもFクラスに来たのじゃ」

「…俺もだ」

「そうか…二人ともありがとうね」

明久は二人に感謝していると明久のケータイが鳴る

「ん？誰だ？…はい、吉井です」

『繋がったようだね？壇 黒谷です』

「壇さん！何故、僕の番号を」

『学園長から聞いたんだ…吉井君 キミに患者だ』

バグスターウイルスの患者がDクラスにいる』

「バグスターウイルスの患者ですか？それは誰ですか？」

『Dクラス代表の平賀源二君だ…バグスターウイルスを見つける時は聴診器のボタンを押すと体を調べてくれる…そして反応があったらドライバーを使ってくれ そうするとドライバーから発生するゲームエリアが現れバグスターが強制的に姿を表す…そして、吉井君が倒すんだ』

「分かりました…やってみます!」

明久はケータイを消すと立ち上がり

三人に言った。

「ごめん!少し用が出来たから行ってくるよ!」

明久は急いでDクラスに向かうと

丁度Dクラスから平賀が苦しそうに教室を出ていた

「大丈夫!」

「くっ…はあ…吉井くん?…何故 ここに?…」

「平賀君…少し調べるよ」

明久は聴診器のボタンを押すと

平賀のからだを調べるとウィルス反応がしていた。

「…やっぱり壇さんの言う通りなら…平賀君 歩ける?」

「あ、ああ…俺の体に何かがあるんだ…」

「平賀君!僕が何とかしてみせる!まずは何処か広い場所に…」

明久は平賀を取り合えず屋上に連れていくと

平賀を地面に寝かすと明久はドライバーを腰に当てると

ベルトが装着される。

「吉井…助けてくれ…」

「大丈夫…僕に任せて」

明久は胸ポケットからガシヤットを取り出し

ガシヤットを起動させる。

《マイティアクションX!》

ガシヤットを起動させるとゲームエリアが展開され

チヨコみたいなブロックが辺りに配置される。

風が明久の髪をなびかせると

明久は笑みを浮かべる。

「平賀の運命は…俺が変わる!!

変身!!」

左にあるドライバー中央寄りのスロットにライダーガシヤットを挿入する。

《ガシヤット! レッツゲーム! メツチャゲーム! ムツチャゲーム! ワツチャネー

ム!? アイム ア カメンライダー!》

明久は二頭身のゆるキャラに変身した。

「…ん? お? おー! すげえ! マイティだ!」

明久は自分の姿に興奮していると

平賀の体から茶色のデカイバグスターが現れる

「コイツがバグスターか…俺がノーコンテニユでクリアしてやるぜ！」

明久の初戦闘が始まる。

ノーコンテニュー

「さてと…俺は説明書を見ないタイプだから軽く試させてもらうぜ！バグスター！」

バグスターは明久に目掛けて突進してくるが明久はブロックを踏み台にしながらバグスターの攻撃をかわす。

「よっ！ほっ！こっちだ！」

バグスターの攻撃を避けながら小さな打撃攻撃を当てて行き

バグスターの体力を減らしてゆくと明久は近くのブロックを破壊するとブロックからメダルらしきものが現れるとメダルは明久の体に吸収された。

「アイテムゲットだぜ！おらおら！」

アイテムを吸収した途端 明久の動きが速くなり

バグスターはなすすべも無く攻撃が当たり

明久はトドメにバグスターの顎を狙いアッパーを繰り出すとバグスターは倒れ爆発を起こした。

「ノーコンテニューだぜ！」

明久はバグスターが倒したと思った瞬間

爆発で分裂したバグスターの塊たちが姿を変え

デカイバグスターから大量のバグスターウイルスと

ソルティバグスターが現れた。

「あ！お前は！ソルティはくしゃく！『マイティアアクション』に出てくるゲームのボスソルティはくしゃく…！」

『いかにも！私はソルティバグスター！貴様を倒す者だ！行け！バグスターウイルスたちよ！』

大量に増えたバグスターウイルス戦闘員たちは

ゆっくりと明久に近付いて行く

「これで倒してやるよ！」

《ガシャコンブレイカー！》

ガシャコンブレイカーを手に持ち、そのまま

バグスターウイルス戦闘員の残りに突っ込んでいった。

そのバグスターウイルス戦闘員にガシャコンブレイカーを

叩きつけると“HIT”という文字が現れた。

ガシャコンブレイカーに叩きつけられたバグスターウイルス戦闘員はそのまま倒れ

込み消える。

「おりゃーどした！こんなものか！」

『舐めるな！』

「くっ！」

明久はソルティが放つ電撃を回避し少し距離を取る

ソルティはくしゃくにはソルティナックルと言う武装があり

電撃を放つ技もあるからかなり強敵である。

『レベルーの貴様は私には勝てない！』

「…なら、ウォーミングアップはこれぐらいで

充分だろう。

このまま一気に攻略するぜ！大変身！」

明久はポーズを決めた後ゲーマドライバーのレバーを

引いた。

「ガッチャーン！レベルアップ！」

マイティジャンプ！マイティキック！

マイティマイティアクションX！」

ドライバーから現れるゲートを潜ると

レベル1の白いボディをパージするし
新たな体を広げて着地する。

前のデフォルメ頭身の体とは違って、人らしく

シユツとしたデザインをし、ピンク色ベースの体に

黒、ピンク、黄緑色の手足、そして背中にはLevelの

顔が瞳が消えているものの装備されている。

「仮面ライダーエグゼイド！レベル2！」

『バカな！レベル2だと!?!』

「一気に攻略してやるぜ！」

明久は再びガシャコンブレイカーを装備し、そのガシャコン

ブレイカーのAボタンを押した。

《ジャ・キーン!》

「フフツ…ジャ・キーン！」

するとハンマー部に収納されていた髪の部分

が起き上がり、そこから刃が伸びて剣へ変形した。

「行くぜ！はっ！」

『くっ…こしやくな!』

ソルティは電撃を放つが明久はそれを避けガシヤコンブレイカーでソルティに当てる。

「おりゃー！」

『ぐああああッ?!』

ソルティは後ろに吹き飛ばされる。

「とどめは必殺技で決まりだー！」

《ガッシューーン》

明久は、ゲームドライバーからガシヤットを

抜き出した後、キメワザスロットホルダーに挿し込んだ。

挿し込んだ後にホルダースイッチ押す。

《ガッシャット！キメワザ！》

右足にカラフルなエネルギーが収束された。

俺はさらにホルダースイッチ押した。

《マイテイクリティカルストライク！》

「ハアッ！」

明久は高くジャンプし、そのままソルティに連続キックを繰り返していき、最後に強力なキックをソルティに叩き込んだ。

《会心の一発！》

強力なキックをくらったソルティは、倒れこみ爆散した。

「よっしやああ!!」

《GAME CLEAR!》

敵を倒して喜ぶ俺の周りにマイティアアクションXを含めたゲームタイトルが現れ、その中から

マイティアアクションXに「GAME CLEAR!」のマークが押された。

明久は変身を解くと平賀に近寄る。

「……うっ……(い)は……」

「大丈夫？平賀君」

意識が戻り平賀が辺りを見回す

「吉井が助けてくれたのか？」

「う、うん…僕が出来る限りのことはしたから

もう大丈夫だよ」

「そうか…ありがとうな！吉井！」

明久と平賀が互いに握手をした

仮面ライダーエグゼイド…吉井明久の戦いは始まったばかりだ。

動き出す影

明久がバグスターウイルスの戦闘を見ていた者がいた

その者は隠れながら明久と平賀の二人の様子を見ていた

「やれやれじゃの…明久もガシヤットを使う日が来るとわ…ワシ…いいや、私も動かないとね」

その者の手には水色のガシヤットを持っており

その者は静かにその場を後にした。

そして、Fクラスの教室

赤髪の少年は静かに呟いた。

「奴らが動き出したか…あの野郎を倒すのは俺だ」

赤髪の少年の手にも青紫色のガシヤットが握られていた。

そして、ゲームコーポレーションの社長室

そこには壇 黒谷と影で隠れているが少年らしき人物が居た。

「…壇 黒谷…手術は受けた…俺にもドライバーとガシャットを渡せ…」

「分かりました。まさかキミに目をつけられるなんてね…」

これが出来たばかりのガシャットとドライバーだ

キミが使いたい時に使うといい」

壇はスーツケースからガシャットとドライバーを取り出し

少年に渡した。

「…俺はアンタを信用していない」

「フッフ…知ってますよ…何故、吉井 明久君を巻き込んだかでしょ?」

「…分かっているなら、何故 明久にガシャットを渡した!」

少年は大きな声を出し壇に詰め寄る

「バグスターウィルスの絶滅の為ですよ? 私がドライバーとガシャットを作らないと彼らを倒すことは出来ない」

彼もまた…キミと同じですよ」

「くっ……分かった…バグスターウィルスの絶滅に協力はするが俺はお前を信用していない」

少年はドライバーとガシャットを持ってその場から消えると

壇 黒谷はパソコンを見ていると呟いた

「キミたちも覗きかい？」

壇が呟いたすぐに

違う扉から二人の男が入って来た

「アイツの始末なら俺がしてやるよ」

「グラフィイト…キミはまだ動いてはダメだ

私の夢の為には私の代わりになって貰わないとね」

「ああ…分かってるよ」

「黒谷？これ新しいガシヤット？」

もう一人の男が壇の引き出しから

四つのガシヤットを見つけた。

「ああ…ゲキトツ…ビート…コンバット…チャンバラのガシヤットだ…まだ使える状態じゃないけどね」

「へえ…」

「グラフィイト…仕事だ…もつとウィルス感染者を作り出し

バグスターを生み出せ」

「了解」

グラフィアイトは社長室から出ると
壇と青年はパソコンを見る。

「彼は素晴らしい才能を持っている…我々の夢の実現の為に」
「僕たちの夢…クロニクルの完成をね…」

その頃 明久は平賀と共に歩いていた。

「まさか吉井がFクラスに行くなんてな」

「姫路さんのことがあったから仕方ないよ」

「だけど、もし何かあったら相談してくれ！」

「うん！ありがとう！平賀君」

動き出す影たち…明久はどう運命を変えるのか？

壇たちのクロニクルとはいったい何なのか？